



今回は平成29年度のSGH事業計画についてお伝えします。

◇ 研究主題： 国際的な視野をもち社会を変革するリーダーの育成

過去3年間の研究蓄積を基盤に、「課題解決型研究」「国際貢献活動」「国際交流活動」を軸とした生徒の活動を、教師による「授業改善」「キャリア教育」を通じて支援するプログラムを展開する。目標とする「国際的視野をもち社会を変革するリーダーの育成」を達成し得る効果的な方策の研究開発を進め、第2ステージを迎えたSGH事業の充実を図る。

◇ 課題解決型研究・国際貢献活動

(1) 1年生課題研究

1年生は、坂田隆文教授（中京大学総合政策学部）の指導の下、課題解決型研究に関する基礎的スキルを学ぶことから始める。各クラスでグループを編成し、地域密着型のグローバル課題を研究する過程で、コミュニケーション力や課題発見・解決力を高める。今年度の学年共通テーマは、「インバウンドを中濃地区へ!」。地域の自然や文化、産業の特性を生かした観光開発の道を模索し、“持続可能な地域開発”をめざす。研究成果は日本語プレゼンにまとめ、代表チームによるプレゼン大会を実施する。

(2) 2年生課題研究

2年生は、1年次に習得した基礎的スキルや知識を活用し、各クラスで結成したグループごとに、「2030アジェンダ」に沿った具体的テーマを選定し、課題解決に向けた研究を推進する。専門家や大学生とのディスカッション、フィールドワークやボランティアなどの実践活動を通じて研究を深める。研究成果は英語プレゼンにまとめ、代表チームによるプレゼン大会を実施する。

(3) 国際貢献活動

課題解決型研究と連動した国際貢献活動については、大学・企業・行政機関・NPO等の外部団体との連携し計画を策定し実施する。今年度は昨年度に引き続き、スターバックス社と連携したフェアトレードに関わる啓発活動、美濃加茂市教委・美濃加茂国際交流協会・ジースプレッド社と提携した教育支援活動等を実施する予定である。

◇ 国際交流活動

国際交流の一環として、英国ヘイドンスクールとの姉妹校提携、海外フィールドワーク、オンラインセッション、留学生との交流事業等を推進する。

(1) 英国のヘイドンスクールとの姉妹校提携

ロンドン郊外に位置するヘイドンスクールとは、一昨年度、姉妹校として提携、本校教員及び生徒が訪問し、グローバル課題やたがいの文化・社会に関する意見交換・交流活動を行った。今年度以降は隔年訪問を原則とし、次年度の訪問を企画する。今年度はICT等を活用してのグローバル課題や国際貢献に関する議論、意見交換を行いたい。

(2) ベトナム研修

平成26年度、シンガポールで関市の刃物産業のPR活動に参加したほか、シンガポールやマレーシアで多文化共生の現状について学んだ。平成27年度はベトナムを訪問、関市の企業のグローバル展開について学んだ。さらにダナン医薬技術大を訪れ、JICA草の根事業の現状やベトナムの保健衛生・医療行政について学んだ。平成28年度はベトナムのファンボイチャウ高校、ダナン医薬技術大学を訪問し、高校生や大学生と交流事業に参加した。平成29年度は、ファンボイチャウ高校、フエ大学を訪問しての交流、フエの観光開発に関わるフィールドワークを計画している。

(3) インターネットを利用したオンラインセッション

一昨年度、世界各地で教育支援活動を行っているNPO法人e-Educationの協力により、フィリピンのミンダナオ島とのインターネットを介したオンラインセッションを行い、本校生徒も英語を使ったコミュニケーションに取り組んだ。今年度も姉妹校ヘイドン校やフィリピンの高校生との交流を計画している。

(4) エンパワメントプログラム(ISA)

今年度12月26・27・28日、外国人留学生との交流プログラムを企画する。交流期

間中は英語のみを使用する。事前課題によるディスカッション、アクティブ・ラーニングを実施する。留学生は本校生徒の家庭に宿泊する予定。

◇ SGHフロントランナー

完成度の高い研究に関しては、外部団体の審査を受けることを積極的に促し支援を行う。一昨年度は、SGH課題研究の成果を生かした生徒の作品が、野村総研論文コンテスト入選作品、慶応大学論文コンテスト最終審査対象作品に選ばれた。昨年度は、日本考古学協会及び九州国立博物館考古学フォーラムでの研究発表（礼文島国際共同学術調査の成果）、日本霊長類学会での研究発表（霊長類フィールドワークの成果）を行った。

今年度は学会発表（考古学協会・霊長類学会）のほか、英語スピーチコンテスト、英語プレゼン大会、科学の甲子園、化学グランプリ等の各種コンテストにも、例年通り、積極的な参加を促す予定である。指導に関しては本校教員のほか、連携する大学や企業、NPO法人等の専門家等、外部有識者からの助言や指導を受けることとする。

◇ 授業改善

日常における学習活動の中心は授業であり、その改善は全生徒にとって大きな効果を生むものとする。「高等学校学習指導要領」記載の学力3要素（知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度）を育成し、さらに高次元での統合をめざす授業改善を推進する。育成した力をSGH活動（課題解決型研究・国際貢献活動）に活かしつつ、さらに各個人のキャリアプランに基づく進路開拓に活用する。

(1) 校内研修

- ① 定期的実施する各教科会や学年ごとの教科担当者の打合せ及び相互の授業参観において、授業内容や授業形態を研究→実践→反省（PDCA）し、指導内容や指導方法を改善する。その際、有効な指導法を模索していく。併せて、年間指導計画やシラバスの見直しも行う。

<授業形態の例>

- ・電子機器（パソコン・タブレット端末・電子黒板等）を利用した授業
 - ・コミュニケーション力・言語活用能力を高める授業（ディベート等）
 - ・課題発見・解決力を高める授業展開
- ② 教科ごとに研究授業を実施する。また年2回（6月・11月）の校内職員向けの授業公開週間（2週間ずつ）を設定するとともに、生徒による授業評価及び教員による相互の授業評価を行い、主題実現に向けた職員の授業力向上を図る。
 - ③ 先進校視察の報告会を職員会議や教科ごとに実施する。また職員対象の外部講師による研修会も実施して職員の授業力向上や意識改革の糧とする。

(2) 教員研修の充実

先進的研究や人材開発の分野で成果を挙げている大学・学校・企業などの関係機関を、各教員自ら調査・訪問し研鑽を積む。研修成果は職員研修を通じて校内で共有し、さらに授業において還元する。

◇ キャリア教育

課題研究や貢献活動を推進する上で、生徒一人ひとりの知的好奇心や公德心を喚起し、課題研究や貢献活動に向かう意欲をおのずと促進するような働きかけとして、生徒全員を対象とした講演会のほか、キャリア教育、国際交流に関する諸事業を下記のように用意する。

(1) SGH講演会

グローバル課題や国際貢献をテーマとした講演会を以下のように設定している。

- ① 平成29年6月20日実施予定 演題「世界一のサプライヤーをめざす！」
講師：石垣 幸二氏（沼津港深海水族館館長）
- ② 平成29年12月5日実施予定 演題「障がい者スポーツとパラリンピック」（仮題）
講師：鳥居 昭久氏（愛知医療学院短期大学教授）
車椅子バスケットボール選手のみなさん

(2) 社会連携セミナー・さくら塾

大学や企業、行政機関等の各分野で活躍中の方々を講師とする希望者対象講演会を、社会連携セミナー：「さくら塾」と題して企画する。グローバル課題、国際貢献、持続可能な地域開発等をテーマとする。現在の予定としては下記の講演を用意している。

- ① 平成29年7月18日実施予定 演題「ボルネオの熱帯雨林保全と霊長類」（仮題）
講師：松田 一希氏（京都大学特任准教授、中部大学創発学術院准教授）

- ② 平成29年9月17日実施予定 演題「外国につながる子ども、発達障がいの子ども」
講師：清長 豊氏 (NPO法人アジャスト代表)

(3) リサーチツアー

大学や研究機関を訪問し、施設見学や実験、フィールドワーク、語学セミナー等を受講する。現在は下記のとおり、企画を進めている。

- ① 看護・医療体験セミナー 中部学院大、朝日大、村上記念病院
- ② 先端科学リサーチツアー
東大先端科学技術研究センター、早稲田大学先端生命医科学センター
名古屋大学工学部、岐阜大学応用生物科学部
- ③ 企業見学
野村総研、関市内企業、名古屋医工連携インキュベータ
- ④ 語学講座、ワールドカフェ
名古屋外国語大、中部学院大、朝日大
- ⑤ 霊長類学野外実習&セミナー
京都大学霊長類研究所、日本モンキーセンター、東山動植物園等

(4) 未来創造週間

大学での研究、将来の職業や将来の生き方を考えるための学年一斉の催しを「未来創造週間」と銘打って、各学年で実施している。いずれも、グローバル課題や国際貢献、持続可能な開発をテーマとする。

- ① グローバル職業セミナー 1年生全員対象
様々な職業分野で活躍する社会人8~9名を講師とする。
- ② ホームカミングデー 2年生全員対象
各界で活躍する関高同窓生8~9名を講師とする。
- ③ 校内オープンキャンパス 3年生全員対象
大学研究者8~9名を講師とする。金沢大学に依頼。
 - 1【人文学類】 矢口 直道准教授
演題 「フィールドから異文化を考える」
 - 2【法学類】 名古屋 道功教授
演題 「ブラックバイトに気をつけよう！留意すべきルール」
 - 3【経済学類】 白石 弘幸教授
演題 「グローバル時代の国際経済社会について学ぶ」
 - 4【学校教育学類】 松田 洋介准教授
演題 「君は教師のスゴサを知っているか」
 - 5【物質化学類】 山岸 忠明教授
演題 「高分子（プラスチック）の不思議な世界」
 - 6【機械工学類】 下川 智嗣教授
演題 「機械はなぜ壊れるのか」
 - 7【電子情報学類】 八木谷 聡教授
演題 「宇宙探査における電子情報通信機器について」
 - 8【医学類】 佐藤 丈寛助教
演題 「ヒトの多様性とゲノム」
 - 9【保健学類】 北岡 和代教授
演題 「人々の健康に貢献する看護」